


～郷土かるたで故郷発見～

諏訪のいろはかるた (12)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた(信濃文化研究会作成)」に詠われたかるたを紹介します。



む 宗良の親王御座所柴宮社

南北朝時代、南朝勢力を回復するために信濃で活躍したのは信濃宮宗良親王であった。親王は後醍醐天皇の第八皇子で、信濃の下伊那大原を御座所にして、信濃の国を中心に東奔西走したので、信濃の宮といわれた。当時の上社・下社大祝以下諏訪勢も加勢した。

親王は和歌をよくし、諏訪下社で夜通し祈願された時に「すわの湖や神の誓の如何なれば秋さえ月の氷しくらむ」と詠まれたお歌が『季花集』にのっている。長地柴宮は親王の御座所であったといわれている。近くには御所・御所清水などの地名が残っており、時の諏訪神社の社人が仮の御所を柴で造り、これが柴宮の名の起りと言われている。近くの神の木は樹齢千年の槻の木(ケヤキの古名)で、尼堂は親王に仕えた女官が尼となつて親王の菩提を弔つたと伝えられている。古く柴宮正八幡宮は親王を祀り、十六弁の菊花紋章が許されたとの伝えもある。

も 守屋山曇れば里は雨となる

古くから古老によつて伝えられる「ことわざ」に、『於自理反礼、守矢敬雲乎、巻上而、百舌鳥義知奈寄婆鎌遠登具信斯』というのがある。守屋山に雲がかかれば、麓は雨になる気象現象を長い間の経験で知っていた。しかし、古代人はこれをただの気象現象と見ず

山の精霊が守屋山に鎮まっていると信じていた。守矢の神は国津神で、神話によれば諏訪大明神が諏訪に入ってきたとき、天竜川でこれを阻止しようとしたが、明神勢に敗れてしまった。その後神氏一族は守矢一族と協力して、この地方の開発につとめた。神氏が諏訪に入る以前の原住民の山岳信仰が守屋山を神として、さらに農耕時代に入ると農耕にもっとも関係の深い気象現象と結びつけるようになった。守屋の山頂には守屋の神を祀つた小さな祠があるが、これを谷に転がして落とせば、神霊の怒りに触れかならず雨が降るといわれた。農民は早天が続くと雨乞いに守屋山に登つて祈つた。

故郷のさくら、満開!

春だ! 桜だ!



今月のおすすめ本

町図書館から

ハーニヤの庭で



借成社

悲しみを聴く石



白水社

ハーニヤが住む小さな家には、小さな畑と小さな庭があります。ハーニヤはその庭が大好きでした。そこにはカマキリ、蝶、モグラと数え切れないほどの小さな生き物が住んでいます。うさぎや渡り鳥、草花の種たちと季節と一緒にたくさんのお客さんがやってきます。目をそらせば、毎日色々なことが起こっている。そんなハーニヤの大好きな庭さあ、今日は何があるのでしょうか。(平出みちよ)

せまく、細長い部屋には、戦場で植物状態になった男が横になっている。男の妻は、コーランの祈りを唱えながら看病を続ける。やがて女は、夫に向かって虐げられてきた女の悲しい秘密を語り始める…。読み手は、むせるような匂い、重苦しい空気を感しながら、次第に物語の世界に引き込まれていきます。アフガニスタンに生まれ、フランスで亡命生活を送る作家の衝撃的な作品です。(井出千穂)



五月の風に揺れるリンゴの花

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

5月の暦
あやめ奉獻報告祭
小口 誠夫 作

下諏訪町総務課 ☎27-1111 内線259 FAX28-1070
下諏訪町教育委員会 ☎27-1111内線718 FAX28-0131
E-mail jyoho@town.shimosuwa.lg.jp E-mail syougai@town.shimosuwa.lg.jp
下諏訪町社会福祉協議会 ☎27-7396 FAX27-0890
ご意見・お写真などをお寄せください